

ODA

しゃりん

82

沖縄脊髄損傷者連合会

編集: 沖縄脊髄損傷者連合会 TEL/FAX 098-886-4211
 〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1西棟2階・ボランティア小規模団体室
 Eメールアドレス sekiren@proof.ocn.ne.jp
 ホームページアドレス <http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/>



県単医療費助成制度見直しについて

昨年末の十二月二十二日、県総合福祉センターにおいて、「重度心身障害(児)者医療費助成制度改正に関する説明会」が、関係する障害者団体の代表者と県の担当部局を交えて行われました。これまで行ってきた重度心身障害(児)者医療費

助成制度の中で、本制度の利用者に対して、自己負担を求める県の考えが示されました。

逼迫する県の財政事情や増え続ける医療費を抑制していくために、受益者からも負担を求めることが主な理由で、来年の平成二十一年七月頃には実施する考えでありました。

そこで、関係する障害者団体約20団体の署名・押印を集め、陳情書を携えて、二月三日は県議会議長と県知事へ、見直し内容が到底受け入れられない旨を伝えてまいりました。その切実なる気持ちを理解していただき、平成二十一年度七月より実施の方針は先送りされました。

年末の県の説明会から、



新年度予算が審議される、県議会二月の定例会開催まで、限られた活動時間でしたが、多くの当事者団体並びに関係者の連携の下、見直す方針を先送りできたことは、大きな成果であったと信じて止みません。

しかし、この問題は、今後とも制度の見直し対象となりうることを示唆する

側のコメントにもあったように、今回で問題が解決ではなく、今後とも注視していかなければならないと思います。

報告：上里

ピアサポートモデル事業実施

平成20年度から、全国脊髄損傷者連合会では、「ピアサポートモデル事業」を実施しています。この事業は、「ピアマネジャーや既にピアサポート活動の経験を持つている脊髄損傷者が、病院やリハビリ施設などに入院している脊髄損傷患者、または在宅の脊髄損傷者とそのご家族等に対して、精神的な支援と社会生活に必要な情報提供などのピアサポート活動を実施

し、脊髄損傷患者のより円滑な社会復帰を促進させるとともに、ピアサポート活動の全国的な普及を図ることを目的とし全国5ヶ所を実施されています。

沖脊連も、モデル事業支部としピアサポートチームを結成し、県内の主要病院9箇所、リハビリ施設や関係機関などに協力を依頼し、ピアサポート活動を実施しています。

これまでも、沖脊連の重要な会活動としてピアサポート事業を行ってきましたが、今回はその活動をいかしながら、本部と連携をとり、一人でも多く、それぞれに合ったピアサポートを目指して活動していきます。

事務局では、これまでに

数件の相談や問い合わせがあり、相談者の方との面会や訪問を行い、5件のピアサポート活動を取り纏め、本部へ報告をしました。

「相談・問い合わせ先」

○那覇市首里石嶺町4の373の1・県総合福祉センター西塔2階

○沖繩脊髄損傷者連合会事務局(098-886-4211)

南部トリムマラソン開

催【3月22日(日)】

糸満市西崎運動公園を発着点とした南部路を舞台に、参加者それぞれのドラマが広がった第21回南部トリムマラソン大会。スタート前の薄曇りの空模様も参加者の熱気が届いたの

か、開始後は青空が顔を出した。沿道から届けられる家族の声援に手を上げて応える男性、娘を肩車しながら笑顔で走る父親、励まし合いながらゴールを目指す女性、趣向を凝らした衣装で日ごろの感謝を伝える人など、8015人の完走者一人一人が額に汗の粒を光らせ、笑顔で走り切った。午前8時、曇り空の下で打ち上げ花火と太鼓が響きわたると、20キロコースを皮切りに10キロ、車いす、5キロ、ファミリーコースの参加者が次々と出発した。一斉に駆けだす走者を沿道で迎える親子連れ。手拍子とともに「頑張れ、頑張れ」と大声援を送る。

各コースの給水所では

ポランティアがコップいっぱいの水を素早く準備し、一気に飲み干す姿に「最後まで走ってね」と温かい励ましの声を掛けていた。

ゴール周辺では、手をつないでゴールする家族連れや恋人たち、疲れて座り込む男性など思い思いのペースで走り切ったランナーたちの表情に満足感が広がる。

完走率91.4%。ピタリ賞は10人だった。参加者は自然豊かな南部路や東シナ海、豊見城地域の市街地が一望できる西海岸道路などを、沿道の声援に後押しされながら、自分のペースで走りきった。

琉球新報抜粋

沖脊連からも、スポーツクラブに所属する会員を中心に多数の方が車椅子コー

スに参加し、各自申告した完走タイムを目標にゴールを目指していました。参加者の皆さん、お疲れさまでした。

九州地区予選大会参加

去った2月14日(土)、15日(日)に、大分県で開かれた車椅子バスケットボールの九州地区予選大会に沖繩シーサークラブが出場しました。

初戦、2回戦、準決勝と順当に勝ち進み、4年連続となる決勝戦へ進出。と同時に、4年連続となる全国大会への切符を手にしました。

決勝の相手はライバルの「太陽の家スパーズ(大分県)」。試合は両チームの

エースが要所で得点を奪い合い、序盤から常に一進一退の攻防を繰り返す。まさに決勝にふさわしい緊迫した試合展開となりました。

一時は10点差をつけられる場面もありましたが、そこからわりわりと追い上げを見せ、逆転をした。時間帯もありました。しかし、常に3〜4点差を追う展開で試合は進み、試合時間残り18秒で3点差。これをどう追いつくか?そこでチームのとった作戦はエースの3点シュートに全てをかけるというものでした。

相手の厳しいプレッシャーのなか、1本目の3点シュートがリングの手前で跳ね返され、そのリバウ

広告(エアー沖繩)

ンドを味方がつかみ、パスをつなぎ、もう1度シュートを試みましたが、今度はリングの奥ではじかれ、試合終了。4度目の決勝戦も優勝をつかみ取ることができませんでした。

この大会をもって、約30年間続いた「沖縄シーサークラブ」はチームの名称を変えるため、最後の最後に初優勝を飾り「有終の美を！」と気持ちには強かったのですが、結局その目標は叶いませんでした。

しかし、名称が変わっても、これまでOBや先輩方が培ってきた「シーサークラブ」の伝統を引き継ぎ、さらにレベルアップした「SEASIRS」として全国大会でも上位に入賞できるようチーム一同がんば

毎月二十五日発行
ODA通巻453号

ばってまいりますので、変わらぬ応援・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。
応援したいいただいた皆様に対しては、この場をお借りしてお礼申し上げます。
本当にありがとうございます。

報告：野原

おすすめ

バリアフリー店情報②



今回のお店紹介は、「ガスト」は、高原店です。いつも、家族・友達と待ち合わせして利用しています。

ます。車椅子様の駐車場1台完備に障害者用トイレ完備！禁煙席と喫煙席を店員

が、聞いて席まで案内してくれそうです。値段もお安く、美味しいです。カロリーを気にしている方にも親切にカロリー表示していますよ。県内に有る、「ガスト」は、1Fならバリアフリーになつてるので、一度はお試しください。

「ガスト」高原店

沖縄市高原555

(098) 931・1177

報告：平田かおり



広告(ちはる歯科)

発行人 沖縄県南風原町字神里六三一 編集人 沖縄県那覇市石嶺町四一三七三一 西棟2F
沖縄県身体障害者福祉協会 ボランティア小規模団体室・しゃりん編集部 上里一之

購読料は会費を含む
【頒価 二十円】